2024年 8月 31日

六ヶ所村立郷土館 他施設見学

二ツ森貝塚館見学ツアー

日本最大級の六ヶ所村富ノ沢遺跡があったころ

七戸町二ツ森貝塚は縄文時代前期から中期(約5,500年前～約4,000年前)の上北地域を代表する史跡です。この貝塚は千年以上にわたり形成された東北地方最大規模の貝塚です。主な出土物は鹿角製の櫛や鯨の骨製の青龍刀形石器など当時の加工技術の高さを知るものや、貯蔵穴の跡から出土した9体の人骨など当時の墓制や精神性を知る上で重要なものが発見されました。二ツ森貝塚があった時代に、六ヶ所村では富ノ沢遺跡など日本最大級の大集落がありました。当時の人々はどのような暮らしをしていたのでしょうか？

日程

8時30分	郷土館集合 ・ 出発	
10時00分～11時00分	七戸町二ツ森貝塚館	見学・モノづくり体験
11時20分～12時25分	道の駅 おがわら湖	昼食休憩
12時30分	道の駅 おがわら湖 出発	
14時00分	郷土館到着	

二ツ森貝塚のなぞ？？？

1 貝塚が語る地球規模で起こった環境変化

二ツ森貝塚があった約5,500年前～約4,000年前は現代に比べ気候が2～3度温暖で縄文海進により、小川原湖が小さな入江だった時代です。周辺では六ヶ所村富ノ沢遺跡や三沢市平畑遺跡、東北町東道ノ上遺跡などがありました。二ツ森貝塚からは貝殻や魚骨、動物の骨などが見つかり、上北地域における当時の環境や食生活を知る貴重な史跡です。

貝塚の壁面を見ると、約5,500年前の下部はアサリが多く、4,000年前の上部はヤマトシジミが多いことがわかります。

貝殻の種類から、小さな入江だった小川原湖は5,500年～4,000年前頃の間で海退し、塩分濃度が低下していたことがわかります。

貝塚があった約5,500年前から4,000年前の間になにがあったのだろうか？

2 縄文時代中期”榎林式土器”命名の地

二ツ森貝塚はかつて、榎林貝塚とも呼ばれていました。この貝塚から出土する沈線文で渦巻文が描かれる縄文土器が、円筒上層式土器（中期後葉5,000年前）の上の地層から出土することがこの貝塚で分かり、縄文時代中期後葉（4,500年前）を示す縄文土器として、”榎林式土器”が昭和19年（1939年）の『考古学論叢10』で角田文衛によって発表されました。

円筒上層式土器

榎林式土器

榎林式土器の特徴は、沈線文でつけられた大きな渦巻文や丸みのある器の形です。

榎林式は、二ツ森貝塚で古くから使われていた円筒下層式土器・円筒上層式土器と、形や文様に違いがあります。

榎林式土器に見られる渦巻文や丸い形はどこから伝わってきたのだろうか？

3 精巧につくられた骨角器

二ツ森貝塚からは数多くの骨角器が出土しています。これらの多くは釣り針や銛頭として使われたと考えられています。

特に鹿角櫛は、線刻や点列、透かし彫りなど装飾性があり、青森県重宝に指定されました。

鹿の角は固く、ノコギリを使って切ると、所要時間は一時間かかります。さらに加工を加えて一つの作品に完成させるために約2～3日分の時間が必要です。また、鹿角は硬く頑丈ですが、力の加減によっては折れてしまい、高度な加工技術をもつ専門的な職人がいたのかもしれません。

六ヶ所村の富ノ沢遺跡では、鹿の角やクジラの骨が焼けた住居跡の中から見つかりました。

鹿の角は生え変わるため再生の象徴であると考えられています。クジラの骨はその大きさから力の象徴と考えられています。

高度な装飾技法をもつ縄文人は本当に原始人？

4 集団規模の人骨が食料貯蔵庫から？

縄文人は木の実などを保管する貯蔵穴をお墓に転用し、二ツ森貝塚では 9 体分の人骨が同じ遺構から出土しました。人骨は同時に埋葬されたと考えられています。

このような人骨の出土例は当時の墓制や風習を知る上で重要な事例です。

二ツ森貝塚から出土した頭骨を見ると眉間のあたりが傾斜しています。
このことからこの頭骨は男性のものと考えられます。

他にも縄文時代の人骨の出土は、土壙墓や貝塚、深鉢形土器、甕棺土器などあり、時代によって風習の違いを伺うことができます。

ほぼ同時期に複数の人が亡くなったのか
それとも…殉死なのか？

5 犬を大切に葬った縄文人

犬は縄文人にとって狩猟のための重要なパートナーでした。

二ツ森貝塚からは、約 4,000 年前の犬の骨が発見されています。

発見された犬の骨は、メスの幼犬のものと考えられます。

犬の骨は、（食べ物などを保存する）貯蔵穴の底から発見されたことから、人の手によって埋葬されたと考えられます。

それぞれ番号の場所に何が見つかったのか、パンフレットを参考に実際に行ってみよう！

小川原湖沼群周辺の貝塚マップ

表館遺跡　約 8,000 年前

アサリやハマグリ、オオノガイ海水性の貝類を主体とする小貝塚が見つかる。

富ノ沢遺跡　約 4,100 年前

日本最大級の縄文遺跡。アサリがフラスコ状土坑の中から多量に出土。縄文時代中期末まで尾駮沼は塩分濃度の高い、小さな入り江だったのか。

弥栄平遺跡　約 4,000 年前

ヤマトシジミなどの貝殻が出土、後期の寒冷化と海退に伴って湖沼群が汽水化し、現在の自然環境に近づいたか。

新納屋遺跡　約 10,000 年前

縄文時代早期の石錘が出土。網漁などが行われていたか。

小川原湖の湖底遺跡

小川原湖のシジミ漁の際にジョレンの中に入ることがある。主に六ヶ所村中志地区や東北町船泊地区の浅瀬で取られる。

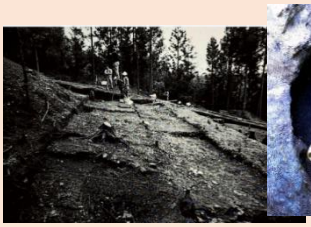
資料が摩耗しておらず、陸からの流れ込みではなく湖底遺跡が存在していたことが考えられている。

平沼貝塚　約 5,000 年前

平沼川流域の台地に位置するアサリや岩ガキの貝殻がみられ、当時は海水が流入していたことがわかる。

二ツ森貝塚★

古屋敷貝塚　約 5,500 年前



ヤマトシジミなどの貝殻が出土、他にホタテ貝で覆われた人骨が検出された。

早稲田・野口貝塚　約 8,000 年前

貝殻や土器の積み重なりから、約 8 千～7 千年前の土器の文様を移り変わりが明かになった。